

第23回

車窓から なぜか魅かれる 名も無い風景

昨年(令和2年)は旅に出ることが少ない1年になった。今まで普通だったことが、すごく貴重なことになった。自粛期間が明けて仕事で出かけられるようになったが、バスや列車に乗っても人が少なく、それでも運行してくれることに感謝せずにはいられない。

12月上旬、列車で帯広方面へ。占冠手前から雪が降り始め、一面雪景色に。そして新得に着く頃には雪はすっかり消えてしまった。札幌から東へ2時間移動するだけで、晩秋～初冬～真冬と景色が変化する。そんな景色を楽しめる列車の旅が改めて好きになった。

列車から見る風景の中で、お気に入りの場所がいくつかある。今回もその一つの場所を通ったがやはり良い。なぜ、心惹かれるのかはわからない。まだ雪は多くなかったが、間もなくエゾマツの針葉樹林に雪が吹き付け、もしくは降り積もるだろう。そして、木々と雪が織りなす白と深い緑のコントラストが美しく、ピンと張り詰めた空気感が漂う北海道らしい風景だ。

こうして文にしてみると、それは北海道のどこにでもある森のように思う。きっと車窓から見る風景が映像のように記憶されて、印象深くなるのだろうか。いやいや、どこにでもある名も無い風景こそが、北海道を豊かで美しい大地にしているのだと思う。

令和3年はどんな年になるのだろうか。どこにでもある森が美しいように、日々の暮らしを大切に、穏やかに希望の光が差し込む年になることを祈りたい。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ? くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



冬のクラシックがたのしめます!

Y 十田岳ビジットセンター
大雪山の十田岳周辺の
をめぐり113人ほど
ツアーがあります!

Y GAO アウトドアセンタ-
トマムノ森で遊ぶ
さまざまなおプログラムが
まんざり!

Y 中本内村
フェリー・エントロフ

Y ぶらのindex
富良野のアウトドアガイドを
たくさん紹介しています!

冬を
楽しもう

冬のアウトドアは、富良野です!




